解放共闘大阪

発行所
部落解放大阪府民共闘会議
大阪市港区波除4－1－37
HRCビル9階
電話　(06)6581－8901
FAX　(06)6581－8902
郵便振替口座　00980－2－58123
発行人　高橋　定
購読料　1ヶ年800円(送料別)

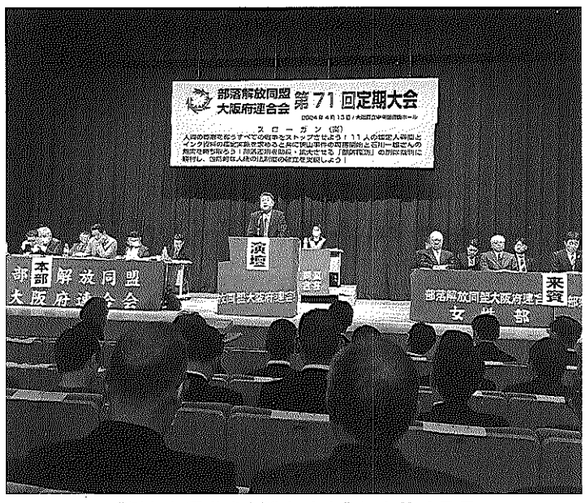
◎部落差別の撤廃は、国の責務であり、国民的課題です。
◎私たちは部落差別をはじめ、障がい者、女性、外国人、アイヌ民族に対する差別など一切の差別をなくすために力を尽くします。
◎「労働者の解放なくして部落の解放なし」「部落の解放なくして労働者の解放なし」という立場に立ってとりくみます。

部落差別を世に問う運動を

第4期部落解放運動の創造・実践へ

部落解放同盟大阪府連大会

部落解放同盟大阪府連の第71回定期大会が4月13日、東大阪市内の大阪府立中央図書館ホールでひらかれ、役員・代議員など233人が参加。第4期部落解放運動の創造・実践、部落差別を世に問う闘い、狭山第3次再審闘争の勝利、「部落探訪」裁判勝利、ジェンダー平等の実現など方針を決めた。今年は、2年に一度の役員選挙がおこなわれた。



"新たな運動を創造しよう"と赤井委員長

主催者を代表して赤井隆史委員長が、差別的な社会制度を世に問い政治を変える。地域課題を再発見し「地域に支部あり」の運動への再挑戦▽部落差別を世に問う闘いとして狭山再審闘争▽若者によるネットワーク型の新たな運動の創造▽組織そのもののあり様を問い、新たな運動へ5つのテーマを提起し大会での議論を呼びかけた。

来賓では、解放同盟中央本部の西島藤彦委員長、大阪府の山口信彦副知事、大阪市の西山忠邦副市長、立憲民主党府連の森山浩行代表・衆議院議員、公明党府本部の伊佐進一副代表・衆議院議員、連合大阪の田中宏和会長、解放共闘の中野勝利議長・自治労府本部委員長があいさつ。各単産労組の代表も参加した。

連合大阪の田中会長は「ビジネスと人権」に触れ、「労組組合は労使関係を通じた使用者側への働きかけや他のステークホルダーと連携しながら取り組む責任がある」と強調。「人権尊重された社会の構築に向けて、解放同盟府連、解放共闘と連携し、未来を切り拓きたい」と激励した。

解放共闘の中野議長は、狭山再審闘争の完全勝利、リバティおおさかの人権資料の大阪公立大学の移管に向けて全力でとりくむとのべた。さらに「解放共闘は2026年に結成60周年を迎える。半世紀以上にわたって労働組合や解放同盟、市民団体、地域が共闘してきた」とのべ「歴史を継承し、あらゆる差別を禁止する法制定の実現に向けて共に活動を強化したい」と訴えた。

田中連合大阪会長

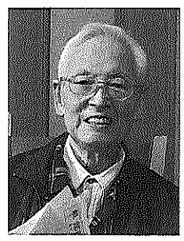
午後は、特別報告として韓国の衡平社運動との交流や沖縄反戦のスタディツアー、能登半島地震支援活動について報告。9人の代議員が発言し高橋書記長が集約し方針提案通り決めた。

中野解放共闘議長

役員体制

委員長＝赤井隆史（西成）▼副委員長＝大北規句雄（中城）岡井寿美代（高槻富田）鶴岡弘美（富田林）村井康利（沢良宜）山中辰也（鶴原）▼書記長＝髙橋定（松原）▼財務委員長＝北田一志（生江）▼執行委員＝浅田正仁（浪速）井上和希（堺）岡井豊（高槻富田）岡本栄治（貝塚）岡本一志（杉原）奥本匡伸（沢良宜）表西貴文（日之出）貝田歩（鶴原）方寿（生江）河部優（鳴滝）袈裟丸朝子（矢田）交野満（浪速）繁田ひとみ（向野）辰巳真司（富田林）塚本佳秀（荒本）土野美穂子（野崎）友永健吾（住吉）中田理恵子（堺）西田和代（西成）西田義則（吹田光明町）西田吉志（西成）前村静香（加島）松本信司（富田林）松本裕（北芝）森尚樹（和泉）森本範人（住吉）山本周平（浅香）吉村憲昭（道祖本）▼財務委員＝小堂敦（平野）細田哲弘（生江）松井育人（松原）吉田勝久（春日）▼会計監査委員＝大野智子（飛鳥）中西加代子（生江）西中義己（寝屋川）木下善弘（蛇草）▼組織規律委員＝西岡嘉裕（加島）原田仁（日之出）東谷寛（樫井）東田正樹（島本）松田義人（和泉）山口直之（松原）

大賀正行さん（元解放同盟府連書記長）が死去



解放同盟大阪府連の書記長をつとめた大賀正行さんが4月15日に亡くなった。86歳だった。葬儀は家族葬でおこなわれた。大賀さんは1937年に日之出で生まれ、若くして部落解放運動に参画。上田卓三さん、向井正さんらとともに日之出支部を結成し初代支部長に就任した。73年に解放同盟府連書記長、74年に中央執行委員として全国の運動を牽引した。また部落解放運動の理論的支柱として共同闘争主導の「第3期の部落解放運動」を提唱。部落解放・人権研究所名誉理事、大阪府同和事業促進協議会の会長などをつとめた。

鑑定人尋問実現！
狭山街宣行動

日　程：5月20日(月)
午後6時30分～

【大阪市内ブロック】
場所：JR京橋駅前
【北摂ブロック】
場所：阪急水無瀬駅前
【河内ブロック】
場所：近鉄河内松原駅前
【泉州ブロック】
場所：JR和泉府中駅前

共生・共走

4月の青空の下でひらかれたハンセン病関西退所者原告団いちょうの会をはじめ6団体主催のお花見交流会に家族とともに参加した。数年ぶりの参加だったが「おっ、元気してたか」と声をかけてくれた▼ハンセン病回復者や家族、支援者らが参加し、持ち寄った弁当を囲みながら、ギターの弾き語りや三線の音色にあわせ参加者全員で唄い、輪になって踊った。清々しい春の一日となった▼厚生労働省は昨年12月にハンセン病への偏見・差別の実態把握を目的とした初の全国意識調査（ネット調査・約2万千人回答）を実施。このほど報告書を公表した▼「ホテルなどで同じ浴場を利用すること」「手をつなぐなど身体に触れること」に、2割近くの人が「抵抗を感じる」と回答。報告書は「ハンセン病への偏見・差別は現存し、依然として深刻な状況にある」と結論づけた▼偏見・差別が現存する社会では、自分又は家族がハンセン病だったことを周囲、家族にも打ち明けることは容易ではない。交流会は安心して話せる仲間が集まる大切な場所だった。また参加しよう。

プレゼンテーションで訴え

狭山事件・第59回三者協議

第59回三者協議が4月19日に東京高裁でひらかれた。東京高裁第4刑事部の家令和典裁判長と担当裁判官、東京高等検察庁、狭山弁護団からは竹下政行事務局長をはじめ高橋・小野・七堂・近藤・青木・河村・指宿の各弁護士が出席した。

協議では、法廷でパソコンを用いて弁護団によるプレゼンテーションがおこなわれ、図や写真をモニターに表示しながら狭山事件の第3次再審請求の全体像について説明した。

また、狭山事件の有罪判決がどのような証拠によって石川一雄さんを犯人としたのか、いわゆる証拠の構造を示した。脅迫状、足跡、血液型、手拭、スコップ、目撃証言、音声証言、鞄、万年筆、腕時計を含む5つの秘密の暴露、殺害方法、死体処理（死体運搬、逆さづり）、自白の変遷、刑訴法435条2号にもとづく再審理由（警察官の偽証が明らかになったこと）など論点ごとに提出してきた新証拠、証拠開示された取調べ録音テープなどの証拠資料によって、いかに有罪判決の誤りと石川さんの無実が明らかになったかを説明した。

また検察官の反論に対して弁護団が再反論した内容について説明した。

次回の三者協議は6月中旬におこなわれる予定。

弁護団は、検察官が今年2月に提出した意見書の誤りを明らかにする新証拠、意見書を次回協議までに提出する予定。

テレビ大阪が人権研修

浪速地区で太鼓づくりを見学

テレビ大阪は4月5日、大阪市浪速区の解放同盟浪速支部資料室などで、新入社員などを対象にした人権研修をおこない、12人が参加した。

渡辺村の史跡を案内する浅居さん

テレビ大阪の局外での人権研修は1998年から始まり、2000年から新入社員研修のカリキュラムとして位置付けられ、浪速部落のフィールドワークやリバティおおさかの見学などがおこなわれてきた。

午前10時に。浪速支部資料室に集合し、解放同盟浪速支部の浅居明彦展示室長が、浪速部落の歴史展示と地域のフィールドワークを案内し、渡辺村にまつわる歴史や人権・太鼓ロードまちづくりを紹介した。

浅居さんは「たくさんのマンションが建ち並び、大きく街並が変わってきている。マンションを購入しようとした若い夫婦が、親から反対され購入を辞めた話を聞く」など、今なお続く部落差別の実態を訴えた。

職人による皮すき

午後からは、浪速部落歴史編纂委員会の渡邊実事務局長が「浪速部落の歴史」と題して講演した。

また渡邊事務局長の案内で、「太鼓正」で太鼓づくりと被差別部落のとの関係について見学・説明を受けた。太鼓の皮はり作業の見学では、職人が皮に傷や注射の針の跡がないかをチェックし、皮すきカンナで血管などをすく。そして、代々受け継がれているリズムで呼吸を合わせて叩く皮はり作業などを見学した。参加者は初めて見る太鼓づくりを通して、部落問題について学習を深めた。

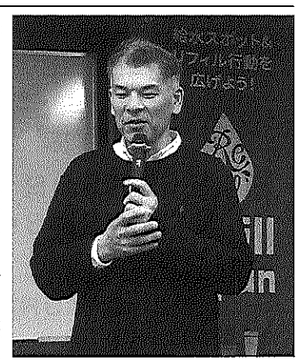
プラ汚染・環境問題を身近に

NPOが水政策集会

Refill（リフィル）大阪が主催する水政策集会「公共水道の役割と海・川プラスチック問題の研修会」が3月23日、大阪中央区のエルおおさかでひらかれ、大阪市水労組やNPOをはじめ約50人が参加した。

主催者を代表して大阪府民環境会議の山口百合子さんは「本集会がSDGsをはじめ地球環境問題が身近な問題として関心を持つ機会に」とあいさつした。

研修1では、水政策研究所の助田武洋理事が能登半島地震で被害にあった地域の水道復旧支援の現状を現場写真や映像を使い報告。災害で当たり前の日常が奪われる問題と蛇口をひねると水が出る水道の当たり前を守る仕事の責任の重さについて話した。またアジェンダすいたから吹田市では市役所や体育館などで35台の「給水スポット」マイボトル用給水機を設置していると報告し、使い捨てられるペットボトルを減らす取り組みを紹介した。

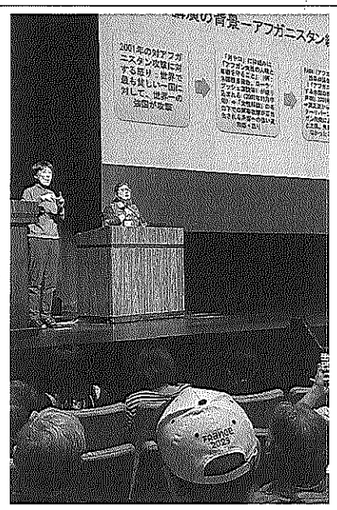


"地域等で「価値の共有」を"と原田准教授

第2部では「海・川へ流れ込むプラスチックごみの問題から、生活からプラごみを減らす先進事例」をテーマに同志社大学の原田禎夫准教授が講演した。原田さんはプラスチック汚染における生き物への深刻な影響を説明し「今後の持続可能な社会の構築と地球環境保全には、資源の最大限の活用と再利用を続けるサーキュライラーエコノミー（再生し続ける経済環境）が重要だ」とのべた。さらに「汚染を解決できる単一の手法はない。個人・企業・地域・国家各レベルでの効果的な取り組み、そして地域レベルから国際的レベルの『価値の共有』が重要だ」と訴えた

全ての戦争に即時停戦を

とめよう！ 戦争への道 めざそう アジアの平和 関西のつどい



"アパルトヘイトに注視を"清末教授

「とめよう！戦争への道 めざそうアジアの平和2024関西のつどい」が3月30日、大阪市中央区のエルおおさかでひらかれ、約500人が参加した。

主催者を代表して大阪平和人権センターの米田彰男理事長は、パレスチナ自治区ガザでの虐殺に警鐘を鳴らし、「私たちは引き続き即時停戦の声をあげつづける必要がある」と訴えた。

室蘭工業大学大学院の清末愛砂教授が「ガザとアフガンで起こっていること、おこったこと」と題して講演をおこなった。

清末教授は、アフガンで女性の団結力で社会を変革し女性の権利を含む全ての人々の権利と自由が保障されるように活動するアフガン女性革命協会（RAWA）と連帯している。女性たちの抵抗運動は「〝生きのびる〟という〝抵抗〟であり、〝したたかさ〟で継続性を追求するものだ」と訴えた。

さらに男性集団が女性集団を支配するジェンダー・アパルトヘイトを紹介し「昨年10月のハマス攻撃を口実にジェノサイドとしか言いようのない軍事攻撃が続いているが、見えにくいアパイルヘイトの支配にも目を向けてほしい」と訴えた。

続いて、戦争のための自衛隊配備に反対する奄美ネット代表の城村典史代表が奄美大島で進む軍事要塞化の現状を報告した。集会終了後、扇町公園までデモをおこなった。